

地域活動団体ヒアリングに関して

資料1-1(2)

1. 名称	2. 設立・規模 ・活動場所	3. メンバー	4. 設立の動機	5. 主な活動内容	6. 取り組みたいこと	7.地域活動拠点のイメージ	8.まちに望むこと印象的な発言
■高齢者・障害者支援NPO							
① ワーカーズコレクティブ たすけあい磯子 (高齢者・障害者・子育て支援全般)	・平成3年設立 ・スタッフ50名、利用者100名 ・磯子区とその周辺へ訪問 ・3丁目事務所	平均年齢55歳くらい、助成がほとんど。 ケアマネージャー(有資格者)は3名。ヘルパーを中心にワーカーは50名ほど。男性2名。	・生協活動の班活動から、地域貢献できることを考えて当時行政の施策が不足していた障害児とその家族の支援をスタート。2000年から介護保険事業、NPO化。	・障害者自立支援事業 ・介護保険事業 ・自主事業(家事支援、子育て支援・相談) ・その他サロンなど	・地域サロン ・デイサービス事業を来年3月から開業予定 ・若年層の就業支援	・高齢者などが気軽に集える立ち寄れるサロン ・習い事などの教室が開ける ・地域活動団体の交流	・高齢者の居場所がない ・地域に安定した仕事が必要 ・雑談の中からニーズがわかる ・60代は80代と親子の世代差で気持ちが分かりやすい
② つむぎ会 (高齢者・障害者移動支援)	平成15年 約30名(非常勤がほとんど)	女性が多い 男性は少なく年齢層は高い(利用者は多く手が足りない)	・障害者や高齢者が地域で住み続けるために、不足している「移動支援」を行うNPO法人を設立 (立ち上げメンバーは施設勤務者や看護師等)	・障害者、高齢者の送迎。保険対象外も内容に応じて引き受ける(院内介助、診察室付き添い等) ・障害児・者の家族向け相談事業(週1回、ケアプラザ、共催)	・過去に児童デイサービスを検討 ・現在の活動で手いっぱい、依頼を断ることもあるため人材発掘をして現在の活動を広げたい	・駅に行ったら集える場所があると良い(商店街の賑わいでもOK) ・洋光台は駅に向かって動線が伸びており、中心部としての駅の役割は大きい。	・買い物支援よりも外にでて自分で見て商品を選ぶ移動支援を ・洋光台の良さはさらっとクールなコミュニティ ・こどもにふるさと思って欲しい ・魅力のあるまちは住んで幸せなまち
■子育て支援・子育てサークル							
③ 子育てサークル わんわんクラブ	・設立時期不明(長年継続) ・10数名(年度ごとに異なる)	ケアプラの近隣で子育て中の親子(地域に知り合いが居ない・少ない母親と、その第1子～兄弟の利用が多い)	子育て中のママが気軽に集まれる場・情報交換できる場として行政が設立・入会を後押ししている	室内での集団遊び、手遊びや読み聞かせ、ゲームなど。(大きい子が多いときは外遊びも)	・クラブを継続させることが課題(せっかく続いているので自分たちでおわらせられない)	・広くて入りやすく使いやすい親子サロン(いそピヨのような) ・授乳スペース ・子どもトイレ(洋式) ・児童館、図書館などの機能	・苦情を言われるので公園で遊ばせられない。地域が子どもを支えようという感じがない ・他区に比べて子育てを支援する意向が弱いと感じる。 ・学校教育のレベルも大事
④ 親子サロン「だっこ」 (ワーカーズコレクティブ・ハッピーママプロジェクト)	・平成23年度より自主活動中の親子サロン ・スタッフ4名 ・利用者4～8組 ・地域ケアプラザや生協会議室など	ワーカーズコレクティブ起業講座で知り合ったメンバー。 全員30代	地域に地縁のない若い母子はとかく孤立しがちで、社会との繋がりが薄れる。子育て中の親子の居場所の必要性を感じてスタートした。	室内遊び、読み聞かせ、交錯などの活動や、親子の防災講座などのイベント。 母親のためのネイルケアや整体師マッサージなども	・横浜市の「親と子のつどいの広場」事業の運営(来年度の汐見台での開設を準備中)	・気軽に利用できる親子サロン ・多世代が交流できる活動	・周りの人の繋がりの中で暮らしている／新しいマンションには若い人が来ているが孤立しがち／一方で孤独な老人もいる／みなが少しずつ地域に繋がっていくと、町はもっと楽しく暮らせる場所になるのでは
■多世代交流等							
⑤ えんがわ	・平成23年 ・約20名＋イベント時に5～6名 ・地域ケアプラザと北団地集会所	60代～の子育て・勤めを退いた女性	・地域ケアプラザの「地域デビュー講座」で知り合った仲間 でサロン活動をはじめた	・100人規模の大規模サロンをケアプラザで年2回、30～40名参加の出前サロンを洋光台北団地で開催。	・サロンの常設化にむけ場所をさがしているが、適切な家賃の物件が見つからない。 ・洋光台のボランティア団体の連携	・インフォメーションセンター ・小さなイベントスペースのようなもの(いろんな団体が代わる代わる使える) ・コミュニティカレッジ	・自分たちが楽しむことが大切 ・まちのよいところを伸ばす
⑥ のれんの会	・平成23年4月 ・約10名 ・地域ケアプラザ	70代～のリタイアメント男性 社会の第一線で活躍されていた方々が多い	・地域ケアプラザの「男の料理教室」の受講生が、料理の会を継続。	・月1回の料理会の他、ペン習字、絵画教室 ・ケアプラザでの他地域団体の会合にランチを提供したことがある	・洋光台のボランティア団体の連携 ・人が集まって、気持ちがまとまるようなイベントを企画したい、	・会の事務所、拠点が欲しい。単独では無理だが、他団体と共同でもつことは可能では。	・まだまだ知力・体力も充実、これまでの経験や知識、経営感覚を地域に役立てたい
⑦ Hさん (港南台タウンカフェスタッフなど地域活動)		・世田谷生まれ洋光台育ち ・美術短大、アパレル会社・店舗部門からインテリア業界へ。結婚後PTA、子育て相談員など地域福祉活動・担当を歴任 ・地域のコミュニティや活性化に関心を高め、「港南台タウンカフェ」設立直後から7年間働き、小箱ショップや地域イベントの責任者として活動			・コミュニティカフェ(メニュー・食材は地域・近隣のお店から調達し、町のアンテナショップに)、貸しスペース、手作り小箱ショップなど、「人々の交流の場、子どもからお年寄りまで誰もが集まれる場所」をつくりたい ・子育てサークル、習い事教室などの地域支援機能 ・街なかイベントなどの主催		・洋光台で育った子どもは洋光台が大好きで、戻ってくる ・地域内の引越も多い ・まちの中高生なども排除するだけでよいのか。きっかけがあれば地域でも活躍できる